

そら

第1号

東近江の
いいとこ
いいひと
見つける本

contents

- 1 目次
- 2 さらに奥へ！奥永源寺は人と自然の宝箱
- 7 ひと あの人に会いに
- 14 東近江で昼食を
- 15 Highschool Life in Higashiomi !!
- 22 守り伝える「土に生きるふるさとの味」
- 23 つくってみようふるさとの味
- 26 農を継ぐひとびと
- 28 幻の筏川を探して
- 32 音楽の力で輪になろう
- 33 あいとうふくしモール
- 34 野菜花の机・椅子をたどる旅
- 36 ガリガリガリ版
- 39 おひとつどうぞ ひがしおうみのあまいもの
- 40 東近江 MAP

表紙写真：御代参街道、裏表紙写真：八日市地区 宮路医院横の小道
目次写真：愛東地区 角井峠から八日市地区を望む



そこら

そんなに遠くにいかなくても
ちよつとそこらを見渡せば
なにかいいことみつかるかも。
東近江のいいひと、いいもの
さっそく探しに出かけました。



はしば こういち
橋場耕一さん
(木工作家)

と橋場さん。それぞれ個性のある木材と向
とつ丁寧を作るよう心がけています」
い心地がよく長持ちするものを、ひとつひ
を重ね自分でも実際に使ってみながら、使
れに適したカタチがあります。何度も試作
制作しています。「身体に触れるものはそ
れに合ったカタチがあります。何度も試作
感を生かし、暮らしの中で使われるものを
入れやスプーンなど、ぬくもりある木の質
を制作しています。「身体に触れるものはそ
れに合ったカタチがあります。何度も試作
を重ね自分でも実際に使ってみながら、使
い心地がよく長持ちするものを、ひとつひ
とつ丁寧を作るよう心がけています」

木工を始めたのは4年前。以前からやっ
てみたいと思っていたそうで、旧幼稚園の
建物が使えろという話を聞き、本格的に木
工を始めました。現在は椅子や箸箱、名刺
入れやスプーンなど、ぬくもりある木の質
感を生かし、暮らしの中で使われるものを
制作しています。「身体に触れるものはそ
れに合ったカタチがあります。何度も試作
を重ね自分でも実際に使ってみながら、使
い心地がよく長持ちするものを、ひとつひ
とつ丁寧を作るよう心がけています」

黄和田町にある閑園した幼稚園の建物
を、工房として活用しているのは、木工作
家の橋場耕一さん。「キハダ舎」で暮らし
に馴染む木の作品をつくっています。

木に向き合う楽しき日々

き合うことは難しさ以上に楽しさでもある
そう。

工房の窓からは黄和田の集落と、奥に続
く山々が一望できます。仕事に息詰まった
時は散歩に出かけ、自然からインスピレ
ーションを得ることもあるとか。黄和田のよ
うに周りに自然がありつつ、車に乗れば街
に出ることができ、足を使えば秘境へも行
けるところがここで暮らす魅力のひとつ
のようです。

橋場さんは今、ここで定住することを
心に決め、自宅そばに新しい工房をセル
フビルドで建てようとしています。「縁
があつてここに住めたことをありがたく
思っています。ただ住むのではなく、昔
から受け継がれてきた地域の暮らしを踏
まえながら、楽しく暮らしていければいい
ですね。同じような思いを持った若い
人をもっと増えてくれれば嬉しいですね」
と笑顔で話してくれました。



question 東近江のおすすめはどこ？

(橋場さん、石橋さん [P4] と) 神崎川

さらに
奥へ！

奥永源寺は人と自然の宝箱

東近江の東の端。山々の緑濃いこの地域が、今賑わいの兆しをみせています。
新たに様々な方が移住してこられたり、楽しいイベントが開かれていたり。
奥永源寺の魅力ってどんどころ？この地に移り住んだ方々をたずねました。



まんじょうちの
政所茶レン茶一
(滋賀県立大学)の皆さん

オープンカフェ・オープンギャラリー
イベント「山歩道」

7<7<ウオーク

コンビニエンスストアお買い物便

匠の祭り

伝統を継ぐ

新たな木地師たち

おぐら しょうじ
小椋昭二さん
(木地師)



木地師とは、木からお椀やお盆などの素地を作り出す職人さんのこと。
奥永源寺地域の君ヶ畑町・蛭谷町は、その発祥の地とも言われています。
今に生きる、新たな木地師たちはどんな人？

東近江市 君ヶ畑町。東近江市の中心部より車で約40分のこの場所は標高も高く、空が近いように感じられます。木々や茶畑に囲まれる自然豊かなこの木地師発祥の地で活躍される小椋昭二さん。そもそも約1000年の歴史を誇る木地師において「小椋」姓は、木地師発祥の時より続く由緒ある姓です。

昭二さんは生まれも育ちも君ヶ畑ですが、実は先祖代々、木地師として活躍されてきたわけではありません。昭二さんが木地師になられたのは今から18年前。おじいさんが営む製材所で働くうちに木材が売れなくなり、ならば木を生かして今後でもできる仕事をと、木地師を始められました。

当時、君ヶ畑町には木地師として活動されていた方はおられなかったため、200年ぶりの木地師として、相当ブレ

ツシャーがあったそうです。

しかし、木地師の仕事は、はじめられた当初に愛知県の木地師から半日教わっただけで、あとは独学で技を磨いたとか。プレッシャーを感じつつ、マイペースでいられるところに職人としての凄味を感じます。

昭二さんの作品は主に「けやき」、「とち」、「たも」、「さくら」、「くすのき」を使っただけです。素材を生かすため表面には何も塗らず、純朴で重みがあり、使い込むうちに手触りや色の変化も楽しめます。

「大量消費大量生産の時代にずっと使い続けられ、使えば使うほど味が出るよさを分かっていたらいい」と語る昭二さん。飄々と話されますが、その言葉の一つ一つには未来への強いメッセージが込められているように感じました。

question

東近江のおすすめはどこ？ 昔の君ヶ畑の蜷場や茶畑



マイミータン
いしばし のぶゆき いしばし たかえ
石橋信之さん・石橋貴恵さん

お金はないけど豊かな暮らし

政所茶の産地で知られる政所集落の中ほどに、古民家を改修した「cafe & めし&酒場『マイミータン』」があります。マイミータンとはタイ語で「お金がない」という意味。チラシに書かれた「自然あります。囲炉裏あります。地酒あります。音あります。天然酵母パンあります。ランチあります。天然いわなあります。こんにゃくあります。お金ありません」という文にこの店らしさが込められています。

い、その間に貴恵さんとも出会い、その間に貴恵さんは当時東京で服飾の仕事をしていましたが、モノに溢れた東京の暮らしに疑問を感じていたそうです。そんな折に信之さんと出会い、ここなら本当の暮らしが出来ると一緒に暮らし始めました。店内は楽器やレコードが置かれ、心地よい音楽が流れています。また冬には薪ストーブに囲炉裏、夏は吹き抜ける風を楽しむので、日頃の喧噪を忘れてのんびりとした時間を過ごすことができます。料理は身体に嬉しいものをと、無農薬米や旬の野菜などこだわりの食材を使用。また、貴恵さんが丹精込めて焼いた天然酵母パンや信之さんが湧き水で丁寧にいたれたコーヒーもおすす。夜は事前に予約をすれば、美味しい地酒とともに宴料理を楽しむことができます。

信之さんは「この景色を見ていたら日頃イライラしていることも自然と忘れれます。来てくれる人にもそうなるてもらえたら。ここが旅人の立ち寄る一本の木のようになればいいですね」と語ってくれました。



SHOP

マイミータン

【住所】東近江市政所町 857-3 【電話】050-5802-9851
【営業】金・土・日曜日、祝日（平日の午前 11:30～17:00 と夜は予約があれば営業） 駐車場3台 きまぐれランチ 1,500 円



ひと

あの人に会いに

東近江に住むいろんな人。

41,600 以上の家があり、

116,000 人以上の人が住んでいる。

同じ街に住む人、大好きなあの店で迎えてくれる人。

あの人のことをもっと知りたくて、たずねてきました。



写真：ハクモクレン店内

きたの きよじ 北野清治さん (木地師)

君ヶ畑町とならび、木地師
発祥の地である東近江市蛭谷
町。集落の中には木地師資料
館も存在し、遠くからも木地
師の歴史や伝統を学びに訪れ
る方も多います。この伝統あ
る場所でも木地師としてロクロ
を回す北野清治さん。実は13
年前に高島市から移り住んで
きた「イターナー者」です。

所属していたボランティアグループの活動
場所が蛭谷町にあったこともあり、一家4人
(妻、娘、息子)で移住されました。高島市で
は新旭の駅前で散髪屋を営んでおられましたた
が、かねてから木が好きだったそう。「移住し、
何か生業を始めようと考えていたときに集落
の方から勧められました。木地師発祥のこの地
でろくろを回す重みを感じながら、や
るならとことんやろうと決意し、木地
師を始めました」と語る清治さん。今は、
蛭谷町の入り口で工房を構え、蛭谷町唯一
の木地師としてその歴史・伝統を受け継
いでおられます。

木地師として活動する一方で、前職の散髪

屋の経験を生かし、奥永源寺地域で「出
張散髪屋」もされています。高齢化が進む
奥永源寺には市街地へ散髪に出かけるのも一
苦勞な方も。そんな人に頼まれて、その方々
へ出向き、散髪をすることもあります。木地師
の伝統だけでなく、地域生活も支える存在とな
っています。

また、木地師発祥の地としてここから発信し
たいという思いから、2012年の秋から奥永
源寺地域で活躍する木地師・木工家と協力し作
品展やオープンギャラリーのイベントも開催
されています。今後の目標はなんとかイベント
を10年間続けて木地師、もの作りの聖地として
全国に発信していくことだそうです。

実は、清治さんの息子で
ある宏和さんも木地師とし
て活動すべく、現在、石川
県で修行中です。2013
年秋に開催された作品展で
は出品もされました。木地
師の地へ移り住んだ北野親
子が、伝統を未来へつない
でいます。



question

東近江のおすすめはどこ？

きぬがき
織山の頂上





ひと

自然派パン工房ふるさとの道
くどう すけよし くどう れいこ
工藤祐義さん・工藤礼子さん

心ときめくパンづくり

「粉と酵母しか入っていないのに、こねたパンが4倍にもふくらんでいくんです。生きてるんだなあって、命の鼓動を感じてね。そのパンが、皆さんの中でまた生き続けていくことに、ほんとに幸せを感じるんです。目をキラキラさせて、パンへの愛情を語ってくださいる礼子さん。『でも現実派の夫は、わたしがそう言う『ふくれとつたらええんや。はややってんか』なんて言うんですよ。』

「自然派パン工房ふるさとの道」。山と田畑に囲まれた集落にある、このちいさな店には、訪れる人が絶えません。店内はぬくもりにあふれ、客同士の間でも、自然に会話が生まれます。

おいしいパンもさることながら、この店のなよりの魅力はご夫婦のあたたかな人柄。ふわりとした笑顔とおしゃべりでもてなしてくれる礼子さんと、やさしく穏やかな祐義さん。

ある日礼子さんが出会った一冊の本『おいしくて安全 国産小麦でパンを焼く』（農文協）。外国産小麦の残留農薬への懸念、天然酵母の魅力について知るうちにだんだんと安全で安心なパン作りへの興味が高まっていきました。そんな中、祐義さんが退職。二人で何か始めたいと模索する中、とりくんだパン作り。

現在の店舗が開店したのは平成17年。ご夫婦は堅田から東近江市へと移り住んで来られました。以来、来店は、昔からずっとここにあって、たかのように周囲にとけ込んでいます。

訪ねて来た人が、おいしいパンとぬくもりをもらって帰っていく。そしてまた、ご夫婦に会いにこの店に来なくなる。「ふるさとの道」は、そんな懐かしいふるさとのような店でした。

question 東近江のおすすめはどこ？

（祐義さん）五個荘中学校前の桜並木かな。
（礼子さん）有線放送で夕方歌が流れるのが、温かみがあって好き。

自然派パン工房ふるさとの道

【住所】東近江市五個荘七里町 325-5 【電話】0748-48-5384
【営業】木曜日から土曜日まで 12:00 から 18:00 頃（売り切れ次第終了）

SHOP



ひと

みかみ ゆき
三上由貴さん
（ファッションデザイナー）



地元の魅力を感じる日々

五個荘で生まれ育った三上由貴さん。普段は京都で服飾関係のデザイナーとして働いています。京都の専門学校を出て、その後も大阪、千葉、東京で暮らし、滋賀へ帰ってきたのは2013年の春のこと。

都会での生活も楽しかったけれど、一緒に暮らしていた同郷の友達と、いつしか「地元に戻りたい」と思うようになっていました。帰ってきて東近江は、「ゼいたくやなあって思いました。全体的に広い（笑）。空気がおいしいです」。

仕事とは別にアクセサリーのデザインや制作をしている三上さん。休日には手作り市に出店したり、イベントに参加することもあります。その中で、ものづくりをする視点からも、地元での生活が心身ともに豊かにしてくれていると感じています。

残念なのは、いいところがあるのに知らない人が多いこと。今後は、地域の人が集まれるようなイベントをやってみたい、と友だちと話したりしています。「できれば滋賀で、東近江でやりたいですね」。

question 東近江のおすすめはどこ？

北向きの観音さん（猪子山の北向岩屋十一面観音）です。ぽーっとできるんです。帰ってきて1番に行きました。

【Blog】『switch — switchの製作活動や日常—』 <http://ameblo.jp/switch-yukiss-switch/>



五個荘川並。風情ある町並みの一角に、築200年の古民家を活かしたお店があります。カフェ&ギャラリーハクモクレン。店を営むのは、有岡保行さんと登美さん。二人が美術大学で教鞭をとっておられた頃、京都から移り住んでこられました。古い商家の持つ美しさに魅せられ、空き家を探す中見つけたこの家。もとの持ち主の「思い出を残したい」との切実な声に、いろんな人が集うことのできるカフェ&ギャラリーとして、家を蘇らせることを決めました。それから、喫茶専門学校に通い始めた保行さん。それまでカフェ業にはまるで興味がなかったそうです。

心くつろぐ「もの」と人々が会う場所に



Cafe&Gallery Hakmokren
ありおか やすゆき ありおか とみ
有岡保行さん・有岡登美さん
(陶芸家) (染織家)

ひと

たそうですが、今では願ひ通り、地元の人をはじめ、様々な人々が訪れる皆の憩いの場になりました。ギャラリーでは、年に6回ほど企画展が開かれ、滋賀を拠点とする作家たちの活動の場になっています。「滋賀には、京都とは違った歴史と魅力がたくさんあります。この家に現れているような質素で堅実な県民性もそう。滋賀の風土を大切にしたい作品づくりをしてほしい」と登美さん。「ギャラリーという敷居が高く聞こえるけど、ここは敷居が低くありたい。いろんな年代の方が出会い、つながる場であって欲しい。県内の他の地域にも作家が集まって活動している場があるけれど、人やものが集まることによって生まれるパワーがあると思う」と保行さん。「古いものは、手をかけることによって良さがでる」。その言葉どおり、お二人の手によって家が、そして地域が、ますます輝きを増しているように感じられました。

question

東近江のおすすめはどこ？

(保行さん) 金堂の古い町並み。観光でさっと見るだけではもったいない。
(登美さん) 宮荘のハリヨの池。絶滅に瀕しているものを大事にする心がうれしい。

SHOP

Cafe&Gallery Hakmokren ハクモクレン
【住所】東近江市五個荘川並町 743 【電話】0748-26-2429
【営業】金曜日から日曜日まで 11:00 から 17:00



つきやま きよみ
築山清美さん
(手当療法士)

ひと

視力を失って、無限に広がった世界



扉を開けた瞬間、まぶしいような笑顔で出迎えてくださった築山さん。共に迎えてくれたのは、大切なパートナーで10歳になる盲導犬のヴェルチュ。Virtueとは、「価値がある」という意味だそうです。

築山さんが視力を失ったのは今から9年前、37歳のときでした。小さい時から音楽やスポーツが好きで、看護学校の教員として働いていた築山さん。失明の宣告に立ち向かう力をくれたのは、手足の自由を失った詩人・星野富弘さんが綴った「なすな」という詩でした。「神様が たった一度だけ この腕を 動かして下さるとしたら 母の肩を たたかせてもらおう」(『風の旅』星野富弘著/立風書房より) 今できることに目を向け、昔から思っていた「ひとを癒したい」という願い通り、失明した後も理学療法士や手当療法士として、また歌やピアノ、フルートの演奏を通して、築山さんは多

くの人を癒し続けてこられました。現在は、講演会活動などで飛び回っておられ、アメリカや中国など世界中の人とお話しする機会も得られたとか。

「わたしは視力を失って8割のことができなくなりました。でも、2割のことができた」。

視力を失った築山さんの前にあったのは、どこまでも広がる自由な世界でした。

東近江のおすすめの場所は？の質問に築山さんは困ったように笑って「わたしには境界線がないのよ」と答えてくださいました。そして、「もったいなくなつたらいいのに、というものはありませんか？」とたずねると、「すべての人間が、相手の幸せを願えるようになってほしい。それにはまず、自分の素晴らしさを知ることが大切」と。忘れてはいけない大切なことを、たくさん教えていただきました。



BASE FOR REST

うえのちしん うえのなる
上野智信さん・上野愛さん

自分のくらしをつくっていいこう

湖東地区にある、工芸作家の工房が集まる「ことうへムスロイド村」。その中に、2013年に「BASE FOR REST」がオープンしました。

ゆったりとした空間で、こだわりの食材を使ったメニューがいただけます。

元々は、甲良町の自宅でご主人が整体とヨガを、奥さんが英会話教室をされていた。2011年のへムスロイド村でのイベントへの参加がきっかけでこの場所を知り、ひと目気に入ったそう。村内に工房を持つ作家さんと仲良くなり、この場所を拠点にしたいという思いは更に膨らみ、ついに実現することになりました。

元あった建物を、材木屋さんの端材を使用し自分たちの手で少しずつ改装。2階の教室のスペースに加え、1階にはカフェもできました。緑に囲まれたゆ

教室を開催したり、今後は、自然栽培野菜のマルシェなどを計画しています。「整体は自分の体を知ること。人の体と食は切り離せないものです。そうすると自然と食のことも気になってきて。自然と寄りそい大切に育ててきた野菜などを買う場所を作りたい」。農家もこだわりのものを生産し、消費者も納得のいくものが買えるようにしたいと考えています。

上野さんご夫妻も来年から田んぼを借りてお米を作るそうです。一緒にやって下さる仲間を募集中！

question

東近江のおすすめはどこ？

湖東平野の夕日です。なだらかな田園風景が広がって、夜はあかりがぼつんぼつんとあって。家の光って感じ。ほっとしますよね。

SHOP

ベース フォー レスト
BASE FOR REST

【住所】東近江市平柳町 568 (ことうへムスロイド村内) 【電話】080-5779-8113
【営業】10:00 から 20:00 不定休 (※カフェは日・月曜日のみ 11:00 から日没)



ことうへムスロイド村 【www.koto-hems.com】

スウェーデン語で「手工芸」を意味するへムスロイド村。様々なジャンルの作家の工房やアトリエがあり、毎年5月には全国から作家が集まるイベントも開催されています。村内は北欧の森のような雰囲気。

Highschool Life in Higashiomi !!

市内を車で走っていると、高校生をよく見かけます。特に自転車で田んぼ道を駆け抜ける制服姿は、自然豊かな風景と相まってとてもまぶしく見えます。
この東近江で過ごす彼らの日常は一体どんなものなのでしょう？そんな素朴な疑問から、市内にある八日市高校と八日市南高校へおじゃまして、学生生活を少しのぞかせていただきました。

東近江で昼食を

ABC 食堂

住所：東近江市八日市
本町 15-17
電話：0748-22-0164
[月・木・金・土・日]
11:30 ~ 14:30
18:00 ~ 21:30
[火]
11:30 ~ 14:30
定休日：水曜日

創業は 1925 年。八日市図書館発行の「筏川」1 号にも登場した、3 代続く昔ながらの八日市の洋食屋さん。メニューにある「村川」と「公民館」は、常連さんの名前から名付けられたセットメニューで各 735 円。誠実な仕事ぶりが伝わります。



公民館（コキールのセット）



村川（ポークビーンズのセット）

そば処

あかそばの郷

赤い花の咲くそばからできた「赤そば」。愛東地区で 60 年前に栽培されていたこの珍しい赤そばが復活しました。ガレット 500 円は、そばの風味豊かなさつくりした食感。そばがき 500 円は、もっちり優しい味。この他ざるそばのセットも。



赤そばのガレット



そばがき

東近江市商工会愛東支部
電話：0749-46-0453
そば処 あかそばの郷
住所：東近江市上岸本町 733
電話：090-2106-2326
営業日：第3土曜日・日曜日
11:00 ~ 14:00

田舎の親戚『香想庵』

住所：東近江市和南町
1572 - 2
電話：0748-27-1111
定休日：水曜日
※冬期は不定休
11:00 ~ 15:00

古民家でいただく山里の味は、どれも地場のものばかり。本当に田舎の親戚の家に来たかのようにくつろげます。大皿料理「鹿肉ロールカツ」コース、「鹿ロースト」コース各 2,000 円は、いろいろなお料理が少しずつ食べられて満腹です。他に一品料理も。



大皿料理「鹿肉ロールカツ」コース



岩魚の塩焼き



1年6組
北川 勇さん



3年3組
小林 琢弥さん



東近江のおすすめの場所
大風博物館。中学校の時、授業で風
を作りました。
将来なりたいもの、やってみたいこと
レジャー関係
部活動
バドミントン
住んでいるところ
八日市
棠楓祭のみどころ
やっぱり模擬店かな。
八日市高校は自由な校風。イベントに
も、とても力を入れています。



2年3組
小漆間 由美さん

東近江のおすすめの場所
延命公園です。文化祭の(劇の)練習
をしたりして、思い出深い場所になり
ました。
将来なりたいもの、やってみたいこと
看護師、管理栄養士
部活動
男子ハンドボール部マネージャー
住んでいるところ
能登川
棠楓祭のみどころ
文化祭のクラス劇「キューバラ (キュー
キューバラダイス)」の脚本を書きまし
た。一人の少年の失恋からはじまる
コメディです。今は劇中の傘を使った
ダンスの練習中です。楽しそうでしょ
う? すごくおもしろいですよ〜。

東近江のおすすめの場所
山とか、愛知川。自然が多いところ。
延命公園で胆試しをしました。
将来なりたいもの、やってみたいこと
中学校の教師
部活動
サッカー部
住んでいるところ
八日市
棠楓祭のみどころ
手づくりの車の展示です。乗って写
真が撮れます! 本物のタイヤは先
生のものです。



八日市高等学校

100年を超える伝統を持つ普通科高校。
毎年7月に行われる、文化祭・体育祭を合わせ
た「棠楓祭^{どうふうさい}」は4日間通して行われる学校の一大
イベントです。





「農業技術科」「食品流通科」「緑地デザイン科」
の3つの学科からなる農業高校。
地域の人に愛され、年に一度の農業祭には多
くの人を訪れます。

八日市南高等学校



八日市高校を取材して

八日市高校の「じふにちまい 棠楓祭」は前半2
日が文化祭、後半2日が体育祭です。
今回は前日の準備段階から取材
しようということで、どきどきしな
がら玄関に入ると、文化祭用の制
作をしていたゴツい男子生徒4、
5人が、「こんにちは」とさわやか
に挨拶してくれてびっくり。そして
せまい廊下には熱気がムンムン。

1年生は教室展示、2年生は劇、
3年生は教室で模擬店だそうです
が、どれもレベルが高いです。印
象的だったのは、みんな棠楓祭を
楽しんでいるということ。

体育祭の見どころは、縦割り団
ごとのフリーアトラクション。全員
が揃いの手作り衣装で行うパフォー
マンスは圧巻です。採点の間は
みんなで延々とフォークダンスを
踊ります。曲はなつかしのオクラ
ホマミキサー。爽やかな青春の一
コマを見せていただきました。

二つの校訓

じきようやすみ
八日市高校には「自強不息（常に自ら努
力し、励むこと）」と「自主協同」の二
つの校訓があります。この校訓の通り、
棠楓祭も生徒達が自ら作り上げます。先
生も特に手伝ったりはせず、「私たちは見
てるだけです」とおっしゃっていました！

東近江のおすすめの場所

雪野山。地元です。イノシシが掘っ
た穴があったりして、自然がそのま
ま残っているところ。

将来なりたいもの、やってみたいこと
大学で自分の好きな分野を勉強し
ていきたいです。

部活動

茶道部

住んでいるところ

八日市

家族関係のみどころ

一番はサーカスが（クラスの）テー
マです。みんなでアイデアを出し合
って考えました。協力して作り上げ
てきたものが、思い出になります。



東近江のおすすめの場所

アピア

将来なりたいもの、やってみたいこと
みんなをまとめること

部活動

テニス部

住んでいるところ

市外



3年5組
村田翔哉さん

★東近江のおすすめの場所
アピア
将来なりたいもの、やってみたいこと
みんなをまとめること
部活動
テニス部
住んでいるところ
市外



緑地デザイン科3年 廣田 優さん

東近江のおすすめの場所

通学路の、田んぼから山まで何もない景色。あと、田んぼ道にある鉄塔が一直線に見えるポイントが自分の中で気に入っています。

将来なりたいもの、やってみたいこと
教師です。4年間勉強して、またこの学校に戻って来たい。

部活動

サッカー部

住んでいるところ

湖東

南高校のおすすめポイント

いろんなことにチャレンジできるところ。今はデザインコンクールがあって、みんなで日本一を目指して頑張っています。

何の勉強が楽しい？

自分で庭の設計ができるのが楽しいです。庭園や公園の設計をしています。



八日市南高校を取材して

門に入って校舎の裏に広がる未知の世界。普通高校高校にはない、田んぼや畑、牛舎・豚舎・鶏舎などどれも見ているとワクワクします。普段の実習はどんな感じなのでしょう。

田んぼの前には八南(ようなん)マーケットがあります。ほぼ毎日の夕方、生徒が店番をしていて、近所のお客さんで賑わっています。知る人ぞ知るこのマーケット、販売しているのは南高で収穫した季節の新鮮な野菜や卵、ヨーグルトやジャム。時にはさばいた鶏肉も！

11月23日は農業祭。毎年朝から大勢の人がつめかけます。とってもお得な花の苗や寄せ植えの他、野菜・加工品などどれも南高ならではの、クラスごとの屋台もあり、ピン入りの牛乳もその場で飲めます。老若男女楽しめるお祭りです。

【八南マーケット】

場所 八日市南高校敷地内
開店時間 15:50 ~ 16:40
開店日 平日ほぼ毎日(詳しい日程は八日市南高校のHPをご覧ください。)

ヨーグルトは1個60円/卵や鶏肉はグラム単位ではかり売ります。



東近江のおすすめの場所

池田牧場。アイスがおいしい。将来なりたいもの、やってみたいこと
アパレル関係。ショップの店員とか。接客したいです。

部活動

手芸部、男子バスケットボール部

マネージャー

住んでいるところ

八日市

南高校のおすすめポイント

牛舎じゃないかな。他のところにはないですね。

何の勉強が楽しい？

農産加工。クッキーづくりが楽しいです。



食品流通科2年 端 菜央さん

東近江のおすすめの場所

自転車で登下校のときに見る田んぼの風景、好きですよ。都会にはないと思う。空気がいいな一つ。将来なりたいもの、やってみたいこと
今は食品流通かな。でもまだ決めるのは難しいですね。

部活動

手芸部。でも手芸はあまりしていませんね。最近ではアイスとか、ガトーショコラ作りました。

住んでいるところ

湖東

南高校のおすすめポイント

勉強ばかりじゃなく、「作ること」「育てること」ができるところ。

何の勉強が楽しい？

実習です。実験したりするんですよ。成分調べたりとか。でも好きなのはやっぱり農産加工とか畜産加工です。ものをつくるのが好きなので。POP作ったりするのも楽しい。



東近江のおすすめの場所

井上製菓。家の近くです。実習にも行きました。

将来なりたいもの、やってみたいこと
食品関係かな。

部活動

華道部

住んでいるところ

八日市

南高校のおすすめポイント

実習がいろいろあるところ。

何の勉強が楽しい？

やっぱり実習ですね。農産加工。クッキーとか、ケチャップとか作るのが楽しかったです。



食品流通科2年 福島 彩花さん

農業技術科2年 寺村 和希さん

【里芋おはぎ】

【材料】

米 カップ3
里芋 300～500g
塩 小さじ2
餡 800g
きな粉（黒ゴマ） 大さじ5

【作り方】

- ① 米を洗って普通の水加減でつけておく。
- ② 里芋を洗って皮をむく。
- ③ ①の上に②と塩を加えて普通に炊き上げる。
- ④ ③が煮えたらすりこ木でつぶし、適当な大きさにちぎって丸める。
- ⑤ 餡を用意する。
- ⑥ 固く絞ったぬれぶきんに1個分の餡をのせて広げ、④を乗せて包み、きれいに形づくる。
- ⑦ 好みによっては餅で餡を包み、きな粉や黒ごまをまぶしてもよい。

つくってみよう
「ふるさとの味」

むらた ふみに
村田文子さん
(料理家)

守り伝える 「土に生きるふるさとの味」

滋賀の郷土料理といえば、その名が浮かんでくる村田文子さん。けれどお話を伺うと「料理なんて、昔はぜんぜん好きじゃなかったの」と意外な言葉が。

大正10年に能登川の伊庭に生まれた村田さんは、幼い頃たいへん体が弱かったため心配されて、ほとんど家のことはさせてもらえなかったのだそうです。

女学校卒業後は、滋賀県農林部の生活改良普及員として30年間農家の衣食住の改善に、真摯に取り組んでこられました。豊富なレシピはその活動の中で学んだもの。

当時の農家の台所は、煙突もない土間で、おくどさんにわらををくべて火をおこしており、当時の主婦は台所仕事にたいへん苦労していました。そこで村田さんは、床上の台所に改装することを提案しましたが、それはけっして容易なことではありませんでした。

「村田ゆうやつは、田舎の生活がわかつとらん。

農家ゆうもんは、手は洗っても足を洗う暇もないんや。飯を炊くのが遅くなるやないか」。そんな苦情がくる状況でしたが、村田さんの提案どおり改装すれば、台所改善資金を借りることができたため、次第に農家の生活改善は進んでいきました。

料理に関しては、こんなエピソードが。当時は、みそ作りにあわせ、冬に麴（こうじ）をつくるのが一般的でしたが、よい麴をつくるために適温を保つ必要があり、誰もが苦労していました。そこで村田さんが提案したのは、温度管理が楽な夏に麴を作ることに。そのうち、冬はハウスで保温するなど、皆が新しい知恵を出し合うようになりました。

「若い人たちに伝えたいことは？」とたずねると、「みそやラツキヨウは家で作ってほしいなあ。おいしい自然の味が食べられるし。あとは、姑さんの教えてくれる味を大事に。そうしたら男衆も喜ぶしね」と、笑顔で教えてくださいました。



question

東近江のおすすめはどこ？

伊庭の西に出て、湖西の方に沈む夕日を見るのが毎日の楽しみ。お月様を見るのも好き。

つくってみよう

「ふるさとの味」

里芋おはぎ
みぞれ小芋
片栗粉のわらび餅



村田さんが出版されたレシピ集『土に生きるふるさとの味』(第三書館)。今回は、その中から「里芋おはぎ」「みぞれ小芋」「片栗粉のわらび餅」の3品を、八日市南高校の食品流通科の2年生のみなさんと一緒に作りました。

まずはみんなで
里芋を剥きます。



その後、
米と一緒に
炊飯器へ。



米と里芋が炊けるまで
「みぞれ小芋」 チームと、



「片栗粉のわらび餅」
チームに分かれて調理。



さてさてお待ちかね。
米と里芋が炊き上が
りました。いい匂い!

そしてひたすらつぶします。



みんな
テンションMAX!



わきあいあいと
みんなで丸めていきます。



先生それはちょっと
大きくないですか...?



いっぱいできてきました〜

固さはこれくらいかな?



完成!



おにぎり型のかわいいおはぎ
できました。



みんなで「いただきます!」



「みぞれ小芋おいしい!」「おはぎもおいしいな」「片栗粉やけどわらび餅やな〜」と様々な感想いただきました! みなさんありがとうございました!



完成品をカシャッ。



農を継ぐひとびと

ひとふさのぶどうからつながる夢

2013年の春に愛東地区に引越して来られた家族がおります。漆崎厚史さん一家です。生まれは旧八日市市。高校卒業後、故郷を離れ大阪で働いていました。

東近江市に戻って来た理由は、ぶどうを栽培したいから。しかし、「ぶどう栽培のスキルもなく、農地もない」。そんな時にNPO法人愛のまちエコ倶楽部にたどり着きました。ここで取り組まれている「新規就農支援事業」を通じて、作り手のいなくなつたぶどう農園を紹介してもらったとともに、農家さんから、ぶどう作りの経験と技術を伝えてもらう機会を得ました。

現在では一人でぶどうを栽培されている漆崎さん。収穫前、「今年は、初めてのぶどうの栽培。どんな風になるか、うまくできるかも、できてみたいとわから

ない」と、不安もありましたが、それ以上に充実感や、楽しさ、わくわく感にあふれていました。「自然を相手だと、うまくいかないこともあるが、手を掛ければ、ちゃんと返してくれる。このぶどう園は、自分の子どものように」と、愛しい目で、語ってくれました。

今回が初めての収穫。愛情いっぱいに育ったぶどうを食べた人から、「甘くておいしい」や「美味しくて感動した」と言っていただけたときは、本当に嬉しかったそう。

将来の夢は、自分で作ったぶどうを使ってワインを作ること。ぶどうを作ろうと思ったのも、オリジナルのワインを作りたいという思いからだっただけです。少しずつ夢に近づいている漆崎さん。オリジナルワインも楽しみです。

中央は漆崎厚史さん。左右は愛のまちエコ倶楽部の増田隆さんと園田由未子さん。



愛のまちエコ倶楽部では、地域に密着した様々な「いなか体験活動」を実施しています。

NPO 法人愛のまちエコ倶楽部
電話：0749-46-8100

うるしざき あつし
漆崎厚史さん
(新規就農)



question

東近江のおすすめはどこ？

愛東の外町の景色。

何にもないが、開けているところが好き。夏には、ホテルが見られるのも良い。



かたやま めぐみ
片山恵美さん
(農家)

能登川地区の自然豊かな繖山のふもとで、家族で農業を営む片山恵美さん。仕事のかたわら週末に手伝いをしていうちに、様々な疑問や興味がわいてきて、自分もやりたいと思うようになりました。農場では米を中心に、カボチャやキャベツなど季節ごとに野菜を作っています。「小規模で作るなら野菜がいい」と、今後は野菜に力を入れていきたいと考えているそう。今は、この場所で作っていくにはどんな野菜が合うのか、色々試しながら選んでいるところです。そのなかでも恵美さんが主になつて育てているカボチャは、今年は7種類作りしました。他にもこの辺りでは珍しい野菜の栽培を頼まれたり、県内の料理屋さんに卸したりして、じかに感想を聞きながら試行錯誤しています。

また、昨年からNPOを通じて農業体験の企画や、若手農家を中心となつて運営する直売所で、仕入れや金銭の面にも携わる機会がありました。「農業だけではない、それ以外のことも学ぶことが大事だな、って。世の中の動きを知ることです」。農家も作物を作るだけではなく、色々なことができるようにならないといけないと感じています。農業を始めたころから力を入れていたのは野菜を使ったお菓子づくり。しかし最近では、多くの人の関わりや経験から、農業一筋により深く考えるようになってきました。とくに祖母からは、目からうろこの知恵を聞くことが度々あります。「先人の知恵をもっと知りたい。昔の農業のことも知りたいです」。身近にあるものにもっと価値を見出して、地元を盛り上げたいと思っています。

question

東近江のおすすめはどこ？

農場から見る田園風景です。奥には安土山が見えます。

特に夏の夕暮れから夜にける空のグラデーションはとてもきれいです。



金屋大通り。この下に見えない流れが。



東近江市役所本庁舎近くの交差点。いつも前の通りを車で走っているが、この川が筏川だとは気がつきませんでした。この近くに工場もありますが、川の水は比較的きれいにみえました。



野村町の中を流れる川。暮らしによりそうゆるやかな流れ。



筏川でなく、若松神社の脇（市役所東庁舎横）の小川にかかる橋。渡る人はほとんどないと思われる橋ですが、橋桁に残る「筏川」の文字が昔を偲ばせます。



川の中のおじぞうさま。



道ゆく少年が、「鯉がいる」と教えてくれました。え？鯉？と色めき立つも、鯉の姿は確認できず。



途で見つけた看板。「小川よこせ 琵琶湖もにこる」。その横には「飛びだすなそこが地獄の一丁目」。…肝に銘じます。



川の中に、魚を発見！写真ではよくわかりませんが、おそらくカワムツ？たくさんの魚の姿に、嬉しくなりました。

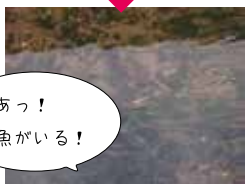


小脇町交差点近く。ここから再び暗渠に。

金屋交差点近くからスタート



本町商店街と金屋大通りの交差点近く。川が地面の下にもぐっているのがわかります。



川の中に、魚を発見！写真ではよくわかりませんが、おそらくカワムツ？たくさんの魚の姿に、嬉しくなりました。



ひたすら川をたどって歩くわたしたち。暑い日でした…。

流れは想像よりも、明るく清く。

幻の いかだがわ 筏川を探して



図書館に残る 筏川の名残り



八日市図書館の敷地に、なんと筏川の橋の一部が！同様の遺構は、八日市コミュニティーセンター、清水会館などにもあるようです。後ろにあるのは、八日市尋常高等小学校校歌の歌碑。

「昔ながらの八日市
賑ふまちの生業を
筏の川のいつまでも
いや継ぎゆかん 諸共に」

筏川の今を知りたくて、少し歩いてみました。

往時の賑わいとともに、語られることの多い筏川。今では、筏川と人々の生活は切り離されたかのようにみえます。けれど、地図をみるとまだ「筏川」の文字が。そう、暗渠にされたのは筏川の延長四二〇間（一間は約1.8メートル）。その他の部分は、まだ太陽の下を流れているのです。

この川に蓋がされたのは、昭和9年の頃。近江八幡から永源寺をつなぐ主要道路だった筏川沿いの道路は、当時大型車は通行できない状態でした。八日市沖野ヶ原にあった飛行場へ資材を運搬するためには、道幅を広げる必要があり、県営事業として覆蓋工事が始まりました。

往時の賑わいとともに、語られることの多い筏川。今では、筏川と人々の生活は切り離されたかのようにみえます。けれど、地図をみるとまだ「筏川」の文字が。そう、暗渠にされたのは筏川の延長四二〇間（一間は約1.8メートル）。その他の部分は、まだ太陽の下を流れているのです。



「今は暗渠になってしまたけど、金屋大通りの下には筏川。ちゅう川が流れてんのや」。

川がまだ地面の上を流れていた頃、筏川沿いにはずらりと市が立ち、とても賑やかだったそう。

筏川の名前の由来には、永源寺方面から木を切つて運ぶのに、筏にして流したので「筏川」となった、という説があるそうです。伝承では、中世に小脇の首長だった伯長者（こまのちようじゃ）が、灌漑のため愛知川から水を引いてきたのが始めとか。



おくら もとひろ
小椋基弘さん
(がらや商店)



まつむら もとじろう
松村元治良さん
(川吉荒物店)



店の表側は、昔ながらの陶器・金物・家庭雑貨のお店。そして、一歩奥に入れば、苔むした古い中庭と、木肌の手触りもやさしいテーブルのある、別世界のように落ち着くカフェが。カフェのオープンが、東近江の合併と同じ日だそう。「そうすると、記念日とか忘れないでしょ」と社長の小椋さん。コーヒー豆は、i-beans coffee (多賀町) で特別にブレンドされたもの。「大風」「太郎坊」「筏川」「てんびん」など地元縁のある名前がつけられています。かき氷の氷は地元小川氷室さんから仕入れたもので、雪のようなふわふわの食感。また、店の入り口にあるガラスの風鈴は、ワイングラスからつくった小椋さんの手作り。「筏川が復活して欲しい。今は車道みたいになってしまった。川になったら車が通れなくて大変かもしれないけど、そこは商店ががんばらないと」通りを見ながら、熱い思いを語ってくださいました。

がらや商店 営業時間 8:00 ~ 19:00

question

東近江のおすすめはどこ？

延命公園の花火をよく楽しんだなあ。



太子ホールの横で、ひときわ目をひく古い商店。時代を感じる木造の店内には、様々なものがあります。草履に麻、塔婆、もやし(種麴)、はては浪人笠(!)まで…。「前まで、虚無僧の笠もあったんやけど、売れてしまったんや。時代劇なんか使うみたいやな」。古い梁には、つばめの巣の跡があり、店の前には懐かしい「ぼったん床^{しょうど}几」(折りたたみ式のベンチのようなもの)があります。「昔、井伊の殿さまが来て一服しはったんや」と元治良さん。200年つづくこのお店ならではの逸話で、元治良さんはその5代目。昔、筏川が流れていた頃、ちょうどお店の前に橋がかかっており、元治良さんはよく川遊びを楽しんだそう。「売れへんものを、売ってる店や」なんておっしゃいますが、地域の人に愛されているのが伝わるお店でした。

川吉荒物店 営業時間 8:00 ~ 19:00



すし たかこ
黒司孝子さん
(荒松紙店)

明治の火事にも焼け残った築140年の古民家。置かれている什器も100年は経っている古道具で、店全体に、懐かしい雰囲気漂います。扱っているのは、主に和紙で、産地から直接取り寄せたもの。大風で使われる和紙も納めているそうです。鳥の羽で作られた筆や手すきの和紙など、店には珍しいものがたくさん。孝子さんが嫁いでこられたときには、筏川はすでに暗渠になっていましたが、昔からいた人には、家の前に大きな柳や榊の木があったと聞いたことがあるそうです。

荒松紙店 営業時間 10:00 ~ 15:00

question

東近江のおすすめはどこ？

瓦屋寺から見る景色。八日市の町並みが遠くまで一望できるのよ。

筏川の流れて

気になるお店をたずねました



とみた かづみ
富田勝巳さん
(富田屋)

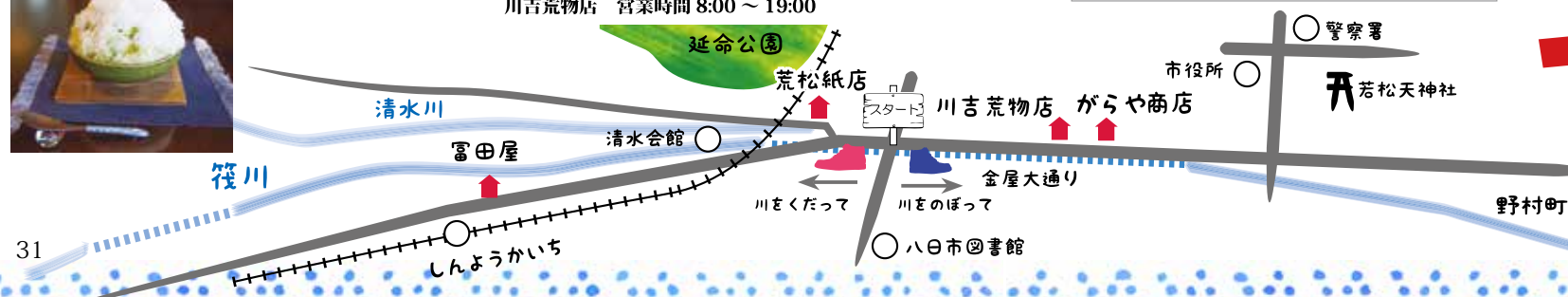
新 八日市駅前の提灯屋「富田屋」さん。急な訪問にもかかわらず、素敵な笑顔でお話してくださいました。ここで作っている提灯はすべて手作り。和紙を張り、形を整えた提灯の上に、ひとつずつ絵や字を書いていくのだそうです。普通に書くと字はにじむので、独特の書き方があるのだとか。手作りの提灯は、手間暇がかかり、1日3つ作るのがやっと。昔はたくさんあった提灯屋さんも、安い大量生産のものに押され、東近江市内で残っている提灯屋さんには、2軒ほどになりました。それでも、丈夫さや美しさでは、手作りにかなうものではありません。富田屋さんでは、修理のほか、オリジナルデザインの提灯の相談にも応じてくださいます。提灯1個18,000円程度。

富田屋 営業時間 9:00 ~ 19:00

question

東近江のおすすめはどこ？

昔、野々宮神社の中の公園でよく遊んだけど、今でもあるのかな？





あいとうふくしモール

あいとうふくしモールとは、障がいがあっても、認知症があっても、どのような症状になっても安心して暮らせる拠点づくりに取り組むプロジェクトです。

<http://fukushi-mall.com/>



次のページでは、多くの人が関わり、形となった施設「あいとうふくしモール」内の、ファームキッチン野菜花についてご紹介します。



構想から4年。多くの関係者の思いと努力によって、『夢をカタチに 安心をカタチに』するための議論と実践の場「あいとうふくしモール」が2013年4月に誕生しました。モール内には「食」「ケア」「エネルギー」をコンセプトに、それぞれの目的をもった三つの施設（障がい者の働きを支援する施設、高齢者の暮らしを支援する施設、食を通じて地域循環を目指す施設）があり、互いの事業活動を連携させ、さらに地域とのかかわりをもつことで、安心と生きがいのある暮らしを創造することを目指しています。連携事業として、「もったいない・やりとり市」の開催や市民参加による太陽光発電施設の設置を行っています。暮らしのさまざまな困りごとをどう地域の中で解決するのか、その取り組みを始めようとしています。と、あいとうふくしモール運営委員会事務局長の野村さんが教えてくださいました。モールには、それぞれのテーマにあった3棟の建物の中に、多くの方の夢や希望が詰まっています。あいとうふくしモールは、これから多くの人の手により育っていくことだと思います。

←木工作家・平尾智子さんの木彫りのうさぎが出迎えてくれます。

Ola'!

くすかみ わたる
楠神さん

音楽は Amigo !



音楽の力で輪になろう

おうみ サンバ パーカッションワークショップ

「サンバ」と聞くと一番に思い浮かぶのは、日本から遠く離れた南米ブラジルを代表する軽快なリズム。年に一度開催されるカーニバルは、国を挙げてダンスを楽しむお祭りです。

そんな「サンバ」を楽しみながら、人の輪をつくる団体があります。「おうみ・サンバ・パーカッションワークショップ」です。始まりは、2009年。京都で映画監督をされている方から、「日本に多くのブラジル国籍の人が来ているが、生活は困窮している。その原因の一つとして、日本の生活になじめない人が多い」という話を聞き、ブラジル人を始めとした外国籍の人と日本人が交流できないかと考え、京都で活動していたサンバチームを招き、交流会を行ったことが始まりです。交流会を開催してみても、「音楽の力」はすごい！と改めて感じたと話してくださったのは、事務局の楠神さん。言葉が通じなくても、「音楽」が人と人をつなぐことができると感じ、この活動を一回で終わらすのではなく、続けていこうと誕生しました。活動は、サンバを楽しむこと。サンバを習いたい人、友達を作りたい人。どんな人でも参加できます。活動を続けていく中で、人の輪が広がり、現在では60名ほどが参加しています。そのつながりの中で生まれたのが、サッカーチームの試合でサンバを踊ることです。今では、子どもたちが楽しみにする恒例行事となりました。

ある日楠神さんは、在日外国人の子どもたちと日本の子どもたちが、無言ですれ違う姿を見かけたそうです。挨拶も交わさないという現実を目の当たりにしたときに、活動の大切さを改めて感じ、地域の中で同じように暮らしているものが当たり前に挨拶をかわせる関係をつくりたい！と改めて感じたそうです。地域での輪も広がり、自然と挨拶が交わることが今後の目標だそうです。その時が初めて「ようこそ、東近江市へ」と言える日なのかもしれませんね。



おうみ
サンバ
パーカッション
ワークショップ

NPO 法人 加楽

住所：東近江市下中野町 637 番地 電話：0749-46-0608



おひさまの恵みを生かして。
屋根の上では太陽光発電が。



景色もごちそう！大きな窓からは、田園風景が楽しめます。



あいとうふくしモールで使われている薪は、障がいをもつ人々が働く「あいとう和楽」の薪工房「木りん」で作られたもの。地域の間伐材などから生まれました。「木りん」では薪の販売もしています。



食べて安心。お母さんたちが作る、地元の食材を使ったおいしい手料理。地元の菜の花から生まれた油を使っています。

めぐりめぐる
地域の恵み



机・椅子・ストーブは鍛鉄工房「室」の安川昌樹さんの作品です。



冬はあったか♪薪ストーブ^{リッシュ} Rith。
針葉樹も燃やせる丈夫な特別製。



のなか 野菜花の机・椅子をたどる旅

地域のを地域で生かす

愛東地区小倉町。集落内の道を行くと、そこは現れます。「あいとうふくしモール」の一番奥にあるファームキッチン「野菜花」。あたりには、ほっとさせられる田園風景が広がっています。一番奥につくられたカウンター席は、窓から見える景色が四季折々に色合いを変え、一枚の絵画のように見える人気のスポットです。



野菜花では、地域の資源は、地域で使うという思いから、地元のお母さんたちを雇用し、料理の材料も地域のものを使っています。お母さんたちが作る料理は季節の材料を使い、素材のうまみを活かしています。その時期に一番おいしい野菜をつかっているの、野菜の味が引き立ち、食べたときにふと郷里を思い出すような味が特徴です。



そんな野菜花は、内装や置かれている一つ一つのものにもこだわりが。

「地元のを地元で使う」という思いのもと、机や椅子も作られました。まず、材料は、滋賀県湖東地域の間伐材を使っています。その土地にあるものが、その土地の気候や空気感ともマッチし、自然な形で存在することができるということです。

そう語ってくださったのは、鉄を加工し、鉄製品を作られている鍛鉄工房「室」の安川昌樹さん。今回、野菜花の机・椅子を作られた方です。野菜花の机・椅子は、とてもシンプルな形ですが、椅子の色味はやさしくて、机は、木のかおりがしてとても落ち着き、野菜花の雰囲気にとり合っています。色味は、野菜花を設計した設計士さんと何度も打ち合わせを重ねて決まったそうです。だからこそ、淡い緑色をした色味がお店の雰囲気とマッチしているのでしょうね。

また、冬には、お店を暖める薪ストーブがあり、やさしい火が迎えてくれます。このストーブも安川さんが作られました。デザインも素敵で、機能性に優れた、暖かい炎が店内をすぐに暖めてくれます。ここで使われる薪も、里山保全の取り組みから生まれた東近江市のもの。

「地域のを地域で生かす」このお店に来ると東近江市で生まれた素敵なものにたくさん出会うことができます。景色も、料理も机や椅子といった内装も、ここにしかないもので、ここでも感じられないもの。行ってみてわかる野菜花の魅力をぜひ、感じてみてはいかがでしょうか。



野菜花のみなさん
中央は野村正次さん

SHOP

ファームキッチン野菜花（のなか）

【住所】東近江市小倉町 1975-3 【電話】0749-46-1455

【定休日】火曜日

【営業時間】11:00～17:00（11:00～14:00 ランチ／14:00～17:00 喫茶・軽食）
17:30～21:30（基本は金曜日・土曜日のみ。要予約）

ガリガリ版



レトロかわいいガリ版印刷

ガリ版ってご存知ですか？
少し年配の方なら、「昔、職場に入ったら研修させられたなあ。削る方向に気をつけんと、すぐ紙が破れんのや」なんて思い出を持つ方も多いのではないのでしょうか。
かつては、学校や職場など身近なところで使われていたガリ版印刷器。コピー機、プリンターへと印刷方法は次々に姿を変え、今ではすっかり姿を消しましたが、今その独特の味わいが「レトロかわいい」と評判です。おしゃれで懐かしい印刷が人気の大阪の印刷会社さんや、滋賀県立大学で郷土を紹介する素敵な冊子を作っているCOOCO編集部の皆さんが、ガリ版のワークショップを行ったり、京都精華大学でも、一部の授業にガリ版印刷を取り入れておられるそう。そのほか、ガリ版印刷で作ったミニコミ紙を発行している方や、味わいを活かしたアート作品を作っておられる方も。映画「コクリコ坂から」にも登場し、またガリ版をやってみたい！という声も増えてきているそうです。
日本では見かけなくなったガリ版ですが、電気を使わない印刷方法が重宝され、アジアやアフリカの小学校などではまだまだ現役です。
懐かしい魅力がいっぱいの、ガリ版印刷に触れてみました。



ガリ版印刷に挑戦！

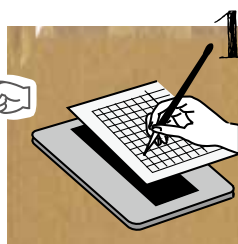
みんなでガリ版印刷器を体験してみたいと、八日市図書館でガリ版で名刺づくりに挑戦するワークショップを行いました。教えて下さったのは、新ガリ版ネットワークの田中浩さん。

- ①ロウ原紙に鉛筆で下書きする。(なくてもよい)
 - ②ロウ原紙をヤスリ板の上にのせ、下書きの上から鉄筆で削る。(このときガリガリ音がする)
 - ③ロウ原紙を絹のスクリーンの下に張り、紙をセット。インクをついたローラーを転がし、できあがり。
- だれでも、気軽に簡単にできるのがガリ版印刷の魅力！のはずなのですが……できません。(泣)

ロウ原紙を削る力の入れ具合が問題で、弱すぎると印刷にでないし、強すぎると穴があきます。ローラーを転がす力の入れ具合もポイント。
けれど、ロウ原紙を削るときは緊張感はいり、何度か挑戦するうちにコツをつかみ、みんなそれぞれ世界に一枚のオリジナル名刺を完成することができました。できあがった名刺は、かすれ具合も、ちよつとしたじみも、ひとつひとつがよい味わい。
印刷が終わったあとの掃除の大変さも含め、いい思い出となりました…。



↑悪戦苦闘中。でも楽しんでます。



ヤスリ板の上にロウ原紙をのせて、鉄筆でガリガリガリ…(ガリ切り)



ロウ原紙を、スクリーンの下に張り、ローラーをゴロゴロゴロ…

ぜひ

ガリ版をやってみたい！という方へ

新ガリ版ネットワーク(事務局:ガリ版伝承館)にて、今でもガリ版器材を入手することができます。また、ガリ版伝承館では、ガリ版印刷を体験することができます。(ひとり200円/要予約)

新ガリ版ネットワーク

1. ガリ版器材を、不要な人から収集、必要な人へ手渡すこと。
2. 散逸、消滅しつつある史資料としてのガリ版器材、印刷物、孔版美術作品などの収集・保存。
3. ガリ版関連情報の“核”としての活動。
を目的とする団体で、ガリ版伝承館を事務局として活動。全国に約100名の会員がおられます。



↑昔のガリ版印刷の作品。



ひがしおうみのあまいもの



がんせん
銀扇

サクッ、ふわっの食感は、まるで空気を口にふくんでいるかのよう。地元のお米と砂糖で作られた、上品な甘さが魅力の麸焼き煎餅。700円（5枚20片）ほか。

えびす
高田蛭子堂

住所：東近江市西中野町 9-10
電話：0748-22-2884 定休日なし



あかね

八日市南高校との産学共同で生まれた、「紫草」をイメージしたおまんじゅう。地元産の羽二重餅を使った求肥餅で、なめらかな餡をつつみこんでいます。650円（6個入）。

井上製菓株式会社

住所：東近江市小脇町 1009
電話：0748-23-5100 定休日：水曜日



ご 五
か 個えくぼ

一口サイズの薯蕷まんじゅう。ちょっとへこんだ形がえくぼのよう。思わず微笑みがこぼれます。1個126円。

ふくいく
富来郁

住所：東近江市宮荘町 419
電話：0748-48-2919 定休日：水曜日



こ 湖のくに生
チーズケーキ

湖国の6つの酒蔵の酒粕から生まれた生チーズケーキ。ひとつひとつのかに違うお酒の風味が魅力です。1個ブラカップ単品290円。

社会福祉法人あゆみ福祉会（工房 chou-chou）

住所：東近江市平田町 717-1
電話：0748-23-6483

ちょっと足をのびして

ほんしやくじ

堀井家ゆかりの寺 梵釈寺

ガリ版伝承館近くの梵釈寺は、かつて堀井家の菩提寺でした。本堂近くには堀井家縁の御位牌堂もあります。日本最古の木造宝冠阿弥陀如来座像を本尊とする、県内では少ない黄檗宗の寺院です。寺の周りには、野の神、山の神もあり、静謐でちょっと不思議な雰囲気漂います。お参りすると子宝に恵まれるという言い伝えも。

住所：東近江市蒲生岡本町 185

電話：0748-55-2701



山門にある、湖東地域で戦後に作られた梵鐘。

ガリ版伝承館

住所：東近江市蒲生岡本町 663

電話：0748-48-7101（近江商人博物館）

開館日：土・日曜日

開館時間：10:00～16:30（入館は16:00まで）

入場無料

ガリ版発祥の地へ

ガリ版（謄写版）を発明したのは東近江市蒲生地区出身の堀井新治郎親子です。電氣を使わず、大量に同じ文章を簡単に印刷できるこの機械は、当時、事務の仕事をも簡素化する大発明でした。

ガリ版伝承館は堀井家の母屋と洋館を改修したもので、平成10年に開館されました。館内では、二人が発明した様々なガリ版印刷器や印刷物を見ることができます。



ガリ版伝承館周辺には、堀井家の残した、たくさんの蔵があります。

としょかんの本棚 「筏川コーナー」 から



いかだがわ
筏川



びわこの東のすてきなところ

発行：八日市図書館
第1号は1986年発行。八日市の
いろんな思い出がつまった本。

発行：狩野桃江
おしゃれなカフェ。魅力的な人。
びわこの東にはすてきがいっぱい。



八日市図書館2階「筏川コーナー」

筏川コーナー

八日市図書館2階にある筏川コーナーでは、全国のリトルプレス（個人やグループで発行した小冊子）を集めています。各地で発行された、自分たちが住む場所を紹介する本には、地元民ならではの、奥深い情報と郷土愛がいっぱいです。

※掲載させていただいた情報は、2014年2月現在のものです。

そこら

第1号
2014年2月24日発行

編集・発行／そこら編集委員会

【お問い合わせ】
東近江市立八日市図書館
〒527-0028 滋賀県東近江市八日市金屋2丁目6番25号
☎ 0748-24-1515 FAX 0748-24-1323

この用紙は「びわ湖の森を元気にする」kikitopーパーを使用しています。

【編集委員】
狩野 桃江
谷 佑一郎
松浦 純子
松野 勝治
森下 瑞美
山梶 穂穂
山口 美知子
(五十音順)

【協力】
高田清さん
山形蓮さん
取材に協力いただいた皆様



紹介させていただいたお店・施設
みなさんのおすすめスポット

八日市地区市街地図



編集後記

今回の取材でたくさんの素敵な方々とお会いしました。

奥まった路地に入れば、今まで気づけなかった風景が広がっていることも知りました。

まだまだ魅力がいっぱいの東近江を紹介するために、「そこら」第2号も作れたらいいな、と思います。

(Y)



池田牧場のひつじ

そこら

第1号

2014年2月24日発行

編集・発行／そこら編集委員会

